

「冬来る庭」
山茶花のはな散りすぎて、
庭のうへに
あたる日の色
濃くなりにつけり
〔春のことぶれ〕
釈 道空

国学院大学 平成29年11月10日(金) 定期号(毎月10日発行) 1部20円
【発行】国学院大学 【編集】総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目 【電話】03(5466)0130 【FAX】03(5466)0528

祭 儀 ■ 月次祭・新嘗祭 12月1日(金) 午前10時 神殿



日本を 次代につなぐ 国学院

「135年」その先へ 赤井学長語る

明治15年の創立以来、国学院大学は日本の伝統文化を研究し、日本語を大事にする教育に力を注いできた。人文・社会科学系学部を通じて研究してきた歴史や文化、宗教といった「日本」を探求する姿勢が評価され、国学院ブランドの認知度は高まっている。

少子高齢化やグローバル化が進む中で私立大学に求められるのはまさにブランド力であり、建学の精神を旗幟鮮明にして個性を磨くことに尽きる。おりしも平成29年度から『国学院』ブランドの確立と強化」を目標に定めた「21世紀研究教育計画」(第4次)を始動、5年後の創立140周年、さらにはその先を見据えて新たな挑戦に乗り出した。

4次計画では「人文・社会科学系の標となる」ことを将来像に掲げ、これまでの実績を礎に、強みをさらに伸ばして他大学のモデルとなるべく本質を極める。一方で、教育目標は「主体性を持ち、自立した『大人』の育成」とし、豊かな知と実践力を養い、多様化する社会を生き抜き、社会を動かす人材の育成を目指す。

文系不要論がいわれる中、赤井学長は「歴史や宗教などを顧みないようでは日本文化を継承できない」と言い切る。日本語・日本文化・神話などを受け継ぎながら次代に伝える本学への使命は大きくなるばかりだ。

〔2面に創立記念式典、

6・7面に赤井学長インタビュー詳細〕

創立135周年にあたって

学校法人国学院大学 理事長 坂口 吉一



学校法人国学院大学が、母体である皇典講究所の創設から、この秋、135周年を迎えますことは、誠に慶祝に堪えないと同時に、初代総裁有栖川宮職仁親王が告げ諭された建学の精神を堅持し、学統を守り、育んでこられました先人の偉業を想い起こし、深く感謝と敬意の念を捧げる次第です。

さて、世界は今や、グローバル社会に変質しており、国境を超えた課題が、複雑かつ広範な様相を見せております。価値観も多様化してきており、ややもすれば、日本人が古よ

り連綿と伝えてきた民族の良識や伝統が、風化してしまふ恐れに直面しています。今日の教育界を取り巻く環境は、少子高齢化やグローバル化の進展など、大きく変化しており、社会から求められる教育機関の役割も複雑化・多様化しています。このような混迷を深める時代において、学校法人としての永続性を担保しながら、発展・充実していくためには、組織としての目標を明確に定め、戦略に基づいて資源を集中的に投資していかねばなりません。本法人では、5年後の目標を『国学院』ブランドの確立と強化」と定めた第4次の「21世紀研究教育計画」を策定し、この4月に公表しました。創立以来135年の歴史の中で形成された伝統と基盤をもとに、新たな価値の創造を目指し、法人役教職員「オール国学院」をスローガンに、総力を結集して目標に向かい邁進してまいります。

みはるかすもの

近年、産業界では世界トップクラスの技術を有する日本企業の凋落が後を絶たない。一つの経営判断の誤りや小さなほころびから瞬く間に信用が失墜している。日本ブランドと言うべき日本人が積み重ねたモノづくり技術や精神は、この先どうなってしまうのか▼気象観測や予報を担う気象庁は、前身の東京気象台が設置された明治8年6月以来、日々気象データを記録し続けている。140年あまりにわたって記録されるそれは、日夜たゆまぬ努力を続ける職員がいてこそなせるものだ▼気象情報は、戦時中、軍事機密として扱われ、国民に伝わらな

った。天気予報は作り続けられたが、住民に伝えることは禁止。スマートフォンを使えば、雨雲の動きをリアルタイムで確認できる現代では想像もできない▼日々の積み重ねは、研究や教育も同じである。一朝一夕に成果が出るものではなく、永きにわたる先人たちの学問の追究の上に本学の今があることは言うまでもない▼皇典講究所開校式が行われた明治15年11月4日、東京の最低気温は10.2度、最高気温は18.7度。雨が降っていたようだ。「夙夜懈ルコト無ク本覺ノ隆昌ヲ永遠二期セヨ」という初代総裁・有栖川宮職仁親王の告諭を聞いた教職員、生徒の高揚感や緊張感ほどのようなものであったのだろうか▼節目の時である。先人たちに思いを致し、足元を見つめ、次なる5年、10年へ地道に成果を積み重ねる決意を皆で共有する機会だ。

理事長・学長らが展墓

学校法人国学院大学では、創立記念日を迎えるにあたり、坂口吉一理事長、赤井益久学長ほか役教職員らが、10月30日に豊島岡御墓所に皇典講究所初代総裁・有栖川宮熈仁親王と高松宮宣仁親王・同妃喜久子殿下を参拝した。また、護国寺檀徒墓地に皇典講究所初代所長・山田顕義伯の展墓を行った。

永年勤続者表彰に28人

11月4日、渋谷キャンパス若木タワー会議室02で永年勤続者の表彰式が行われた。勤続40年・30年・20年の節目を迎えた本法人傘下各校の教職員28人に対して、坂口吉一理事長から表彰状が授与された。

表彰者は次のとおり（敬称略）。

【勤続40年】丸山典子、山口智子、星美由紀（以上大学）

【勤続30年】土田壽孝、中泉真樹、茂木栄、植原吉朗、柴田保之、川口愛子、内川隆志（以上大学）、吉田裕一（国学院大学北海道短期大学部）、清水真理（国学院高等学校）、佐藤誠博、浅野光洋、緒方裕一、三戸治彦、関根明博（以上国学院大学久我山中学高等学校）

【勤続20年】磯村早苗、菊田真司、黒崎浩行、後藤幸雄、生形恭子、内田宣央、佐藤明美、添谷昌稔、曾根田勉（以上大学）、對比地竜宏、三野貴之（以上国学院大学久我山中学高等学校）



院友会 神殿で発足130周年の奉告祭

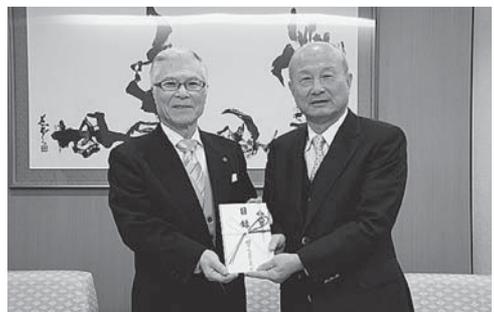
本学の卒業生組織「一般財団法人国学院大学院友会」が発足130周年を迎え、11月1日に渋谷キャンパス神殿で奉告祭を斎行した。

祭典には、吉田茂穂・同会会長ら院友会役員、坂口吉一理事長、赤井益久学長らが参列。吉田会長らが玉串拝礼を行い、同会の更なる発展を祈念した。



院友会 寄付金の目録を贈呈

一般財団法人国学院大学院友会から、本法人および本学に対して奨学資金などを目的とした寄付が贈られることとなり、11月1日に吉田茂穂・同会会長から坂口吉一理事長と赤井益久学長に対して目録が授与された。



創立135周年記念式典など挙行 坂口理事長「新たな価値の創造に挑戦」

創立135周年を迎えた本学の創立記念祭と創立記念式典が11月4日、渋谷キャンパスで執り行われ、併せて関係物故者慰霊祭も斎行された。

渋谷キャンパス神殿での創立記念祭（斎主＝大野靖仁神殿奉斎員・神道研修事務部長）には、坂口吉一理事長をはじめ赤井益久学長、法人役員教職員や学生らが参列。積み重ねてきた135年の歴史に思いをはせつつ、今後の本学発展に向けて思いを新たにしました。引き続き百周年記念館記念講堂で挙行された創立135周年記念式典で坂口理事長は「135年の歴史の中で形成された伝統と基盤をもとに、新たな価値の創造に挑戦する」と述べ、来賓の吉田茂穂・一般財団法人国学院大学院友会会長は「国学院ブランドの確立と強化のため、われわれ院友は大学と一体になっ

て歩んでいきたい」とあいさつした（要旨別項）。
続く関係物故者慰霊祭（斎主＝茂木貞純神奉斎員・神道文化学部教授）は、創立以来本学関係者で物故された役員教職員や学生、中でもこの1年間に亡くなられた人の御霊を迎えて斎行された。令人の「追慕歌」、学生の「慰霊の舞」、フォイエール・コール混声合唱団の「追悼歌」が奉仕され、参列した人々は物故者に思いをはせた。「慰霊の舞」は作曲した芝祐靖氏は、雅楽の分野から初めてとなる文化勲章を今年度に受章されている。

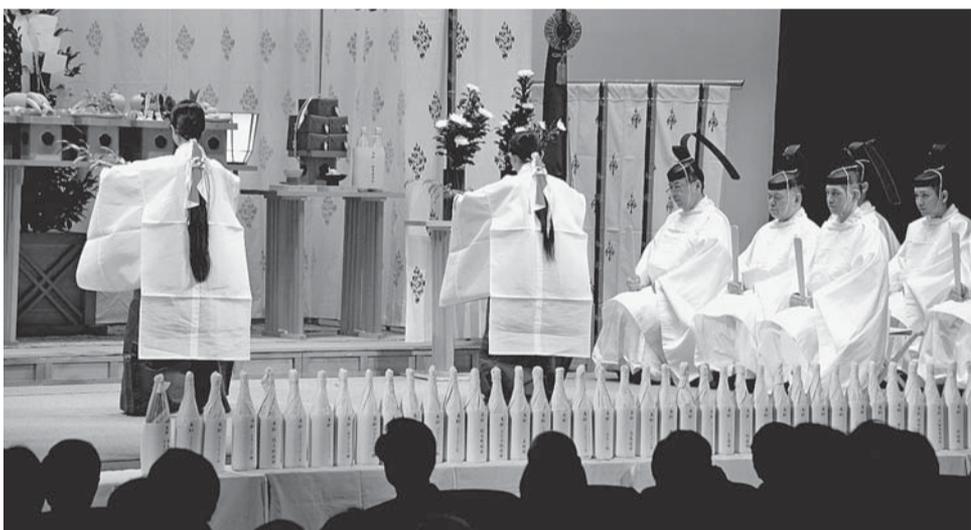
結果、国学院大学のブランド力が確立、強化されるものと期待をしております。
坂口理事長の式辞（要旨）は次の通り。
坂口理事長「学校法人国学院大学の役教職員、学生、生徒が一堂に会して創立135周年の式典を挙げていきます。これは本法人代表として喜びに堪えません。本学の源は明治15年に創立された皇典講究所、（有栖川宮熈仁親王の）『告諭』を建学の精神として『国体の講明』『徳性の涵養』を法人傘下の各教育機関の永遠の目標としています。世界は今やグローバル社会を迎え教育機関の役割も複雑・多様化しています。その中で、本法人では5年後の目標を国学院ブランドの確立と強化と定めた『21世紀研究教育計画（第4次）』を策定し、創立以来135年の歴史の中で形成された伝統と基盤をもとに、新たな価値の創造に挑戦します。取り組み期間である今年度からの5年間は、創立140周年、150周年を見据えた重要な時期となります。計画推進で法人傘下各教育機関の魅力や価値が向上し、その



式辞を述べる坂口理事長



創立記念祭



学生による慰霊の舞（関係物故者慰霊祭）

「追慕歌」、学生の「慰霊の舞」は作曲した芝祐靖氏は、雅楽の分野から初めてとなる文化勲章を今年度に受章されている。

結果、国学院大学のブランド力が確立、強化されるものと期待をしております。

結果、国学院大学のブランド力が確立、強化されるものと期待をしております。

平成30年度 学費一覽

平成30年度学費は次のとおりです。

世界、留学を身近に GO GLOBAL WEEK

10月23日から27日まで、渋谷キャンパス3号館で、学内留学フェア「GO GLOBAL WEEK」が開催された。

海外を目指す学生たちを対象にした同イベントは、今年で2回目。留学経験者によるミニプレゼン、質問会や国際交流課員による個別相談ブース、本学の協定校の資料閲覧コーナーが設置され、留学に興味を持つ学生らが連日足を運んだ。

25日には、航空会社の国際線客室乗務員や企業の海外推進事業室などで勤務する院友による特別企画の座談会を開催、参加した学生たちは、先輩たちのリアリティーあふれる体験談に熱心に耳を傾けた。

航空会社に勤める卒業生は、「どのような仕事も世界とつながっている。日本の代表として、自国の文化をきちんと伝えられることが重要」と語った。

訃報 橋元文学部教授 逝去

橋好碩・元文学部教授が9月18日逝去。75歳。葬儀は近親者により執り行われた。



橋氏は、昭和17年生まれ。43年横浜市立大学文理学部卒業、45年東京都立大学大学院人文科学研究科修了。同大助手などを経て47年本学文学部専任講師、50年同助教授、60年同教授、平成24年定年退職。

在職中、国際交流委員長やたまプラーザキャンパス長などを歴任した。

専門は、ドイツ語。著書に「文法はたのしい改訂版 Kontakt mit der deutschen」(朝日出版社)などがある。

訃報 佐野文学部教授 逝去

佐野光一・文学部教授が10月18日に逝去。66歳。通夜は26日に、告別式は27日にJ A齋場 昭島ホール(昭島市)で執り行われた。喪主は、佐野謹三氏、佐野慎也氏。



佐野氏は、昭和25年生まれ。50年東京教育大学教育学部卒業、53年東京教育大学大学院教育学研究科修了。本学兼任講師などを経て、56年本学文学部専任講師、62年同助教授、平成8年同教授。

専門は、書道、中国書道史、木簡学。著書に「集字手本 石鼓文を書く—古代の文字を習う」(天来書院)などがある。

教職員人事

退職

◎大学事務局○専任▽菅野浩太郎(学生事務部学生生活課書記補)

平成29年11月30日付

秋の叙勲 本学関係者2氏が受章

11月3日付で秋の叙勲が内閣府から発令された。これまでに判明した本学関係の受章者は次のとおり。(11月10日現在)

- ◇瑞宝重光章(教育研究功労)
- ▽野本寛一(昭43卒・76期文、近畿大学名誉教授)
- ◇瑞宝双光章(文部行政事務功労)
- ▽宮川八岐(元本学教授・元国立妙高少年自然の家所長)

また、今年春の叙勲で、元高等学校長の長坂文杜氏(昭36卒・69期史)が瑞宝小綬章(教育功労)を受章した。

なお、他の受章者が判明した場合は、本紙663号(平成29年12月10日付)以降に紹介する。

学部

(単位:円)

区分	入学年度	入学金	授業料	施設設備費	維持運営費	合計
文学部 経済学部 法学部 神道文化学部 人間開発学部	平成30年度	260,000	700,000	201,000	10,000	1,171,000
	平成21~29年度	—	700,000	201,000	10,000	911,000
	平成20年度以前	—	691,000	201,000	10,000	902,000

備考 再入学者の入学金については半額とする

別科

(単位:円)

入学年度	入学金	授業料	施設設備費	維持運営費	実習料(入学年度のみ)	合計
平成30年度	145,000	420,000	81,000	10,000	6,000	662,000
平成27~29年度	—	420,000	81,000	10,000	—	511,000

専攻科

(単位:円)

出身別	入学年度	入学金	授業料	施設設備費	維持運営費	合計
本学卒	平成30年度	130,000	700,000	100,500	10,000	940,500
		260,000	700,000	201,000	10,000	1,171,000
他大学卒	平成29年度	—	700,000	100,500	10,000	810,500
		—	700,000	201,000	10,000	911,000

備考 本学出身者の入学金および施設設備費は半額とする

大学院

(単位:円)

出身別	入学年度	入学金	授業料	施設設備費	維持運営費	合計	
前期課程	本学卒	平成30年度	100,000	505,000	100,000	10,000	715,000
		平成29年度以前	—	505,000	100,000	10,000	615,000
	他大学卒	平成30年度	200,000	505,000	200,000	10,000	915,000
		平成29年度以前	—	505,000	200,000	10,000	715,000
後期課程	本学卒	全入学年度	—	505,000	—	10,000	515,000
		平成30年度	200,000	505,000	200,000	10,000	915,000
	他大学卒	平成29年度以前	—	505,000	200,000	10,000	715,000

- 備考
1. 授業料、施設設備費、維持運営費は在学中毎年度納入するものとする
 2. 本学出身者の入学金及び施設設備費については次のとおりとする
 - イ. 前期課程=半額
 - ロ. 後期課程=本学前期課程修了者は徴収しない。本学学部出身者で、他大学前期課程修了者は半額

法科大学院

(単位:円)

出身別	入学年度	入学金	授業料	施設設備費	合計
本学卒	平成26年度	—	950,000	50,000	1,000,000
他大学卒	平成27年度	—	950,000	200,000	1,150,000

- 備考
1. 授業料、施設設備費は在学中毎年度納入するものとする
 2. 本学の学部、大学院出身者の施設設備費は50,000円とする



「行政のプロ」として学生の提案に講評する長谷部区長

「オリパラ」へ向け渋谷区長に提言

本学の学生が渋谷区に様々な施策を提言する提案会が10月18日、渋谷キャンパス若木タワー有栖川宮記念ホールで開催された。今回の課題は「2020年東京五輪・パラリンピックへ向けた渋谷の活性化」と「渋谷川の利活用」。11企画がエントリー

し、長谷部健区長、赤井益久学長らによる審査の結果、渋谷区長賞には萩原甲斐君(経3)と五十嵐悟天君(経ネ3)の「渋谷川沿い遊歩道の活用策の提案」が、学長賞には上村明日香さん(初教3)、井上裕貴君(健体3)、小林径加さん(同)による「春の小川」を復活させよう!渋谷×オリパラ×日本文化」が選ばれた。

11組の提案を審査した長谷部区長は「若者らしい提案でパワーポイントも使いこなせていた。データを出すなら『なぜこうなったか』をしっかりと分析し、仮説でもよいから提案してほしい」と激励。学長賞の施策に赤井学長は「本学の学生らしい考え方」と講評した。受賞作以外の企画は次の通り(順不同)。

「ワーカーを足元からアクティブに!アシティブ!!」▽渋谷新計画「歩け歩け渋谷川」▽並木橋鉄道公園▽渋谷川にどう人を集めるか▽「Welcome to the new SHIBUYA」▽2020年に向けての運動活性化▽「都心の休憩所」▽近隣住民、オフィスワーカーから愛される落ち着く渋谷▽「緑・水・鉄道跡を用いた新たな名所づくりプロジェクト」



扇や鈴を手に平穩を願う「浦安の舞」



雲鳥に由来した装束で舞われる「迦陵頻」

第8回 観月祭齋行

本学神道文化学部の学生らが古式ゆかしく日本伝統の管絃や神楽舞、舞楽を披露する第8回観月祭が10月21日、渋谷キャンパス130周年記念5号館のピロティで行われた。会場に詰めかけた約65

0人の観客は、半年近くかけて稽古を積んできた学生の演奏と舞に大きな拍手を送った。管絃は双調音取から始まり、武徳楽、陵王が演奏された。笙、箏、龍笛の三管と鞆鼓、大鼓、鉦鼓の三鼓が息の

そろうた演奏で、会場は荘厳な雰囲気になりました。続く神楽舞では朝日舞と浦安の舞が披露され、最後は舞楽が舞われた。振鉦は鉦を持った舞人が舞台を清める意味がある。「左舞 迦陵頻」と面をつけて勇壮に舞う「右舞 抜頭」が奉納され、約2時間にわたる観月祭は終了した。見学に訪れたマレーシア出身の留学生チャン・ヨウ・ゲェンさんは、日本古来の音色と舞踊に感銘を受けた様子で、「興味を引かれる舞と衣装だった」と話した。

「世界の変革始まった年」朝鮮半島情勢の背景も紹介

久保田るり子客員教授が講義



緊迫する朝鮮半島情勢などについて講義した久保田るり子客員教授

各界の第一線で活躍する方を迎えて行われる本学の水曜講座が10月25日、渋谷キャンパスで開催された。6月に本学客員教授に就任した久保田るり子・産経新聞編集委員が「激動する朝鮮半島を読む」緊迫の北朝鮮、反日の韓国をテーマに講義し、本学の学生やオープンカレッジの受講者ら約80人が聴講した。

本学での初講義となった久保田客員教授は、イギリスのEU離脱決定などに象徴される最近の欧州情勢や中国の巨大化と権力集中を引き合いに出し、「今年の世界の潮流を塗り替える『変革の始まった年』となる。朝鮮戦争から続く核開発が米朝対立の問題の中心で、日米関係を強固にすることが日本の防衛策だ」と述べた。また、韓国・北朝鮮間に横たわる停戦ラインの北緯38度線を3回越えた自らの体験について触れ、「停戦ラインをはさんだ南北2キロの非武装地帯は、(鳥の)サギが飛ぶなど総天然色の美しい楽園のような場所だった」と紹介。しかし、停戦ラインをはさんで対峙する南北の兵士の差異から、「北朝鮮の貧困がうかがえた」と指摘した。

博物館 来館者20万人突破

本学博物館は、11月10日に累計来館者が20万人を突破した。平成25年4月の名称変更から4年6カ月余りでの大台達成。

10月14日からは、宗像・沖ノ島が世界遺産に登録されたことを受けて、神道の「はじまり」を新たな視点で紹介する企画展「神道の形成と古代祭祀」や、考古学研究室が群馬県吾妻郡長野原町の居家以岩陰遺跡で平成26年から行っている学術調査の速報展示「発掘された縄文時代早期の人骨—居家以岩陰遺跡の発掘調査—」などを開催中。約8300年前(縄文時代早期)の女性人骨など学内外の研究成果を展示している。



アートで古事記への理解を深める 第1回古事記アートコンテスト 作品を募集

本学古事記学センターでは、一般財団法人神道文化会と共催で「第1回古事記アートコンテスト」を行う。『古事記』の理解や日本文化への関心を促す目的で、全国の大学、短期大学、専門学校の学生、大学院生を対象に、『古事記』の内容に関する絵画・イラストを募る。



作品の応募は、12月3日(日)(当日消印有効)まで。

来年1月20日(土)に、同センター主催の国際シンポジウムに合わせ、表彰式と表彰作品の展示を予定している。

本学学生と一関市民が 神楽を奉納

本学歴史地理学研究室は、岩手県一関市で古くからある景観を後世へ遺すための調査、研究活動を20年近く行っている。

10月28日、調査研究対象地域の一つである同市内京津畑地区の住民らが来校。神殿前で、地域に伝わる「京津畑神楽」の奉納を行った。

今回の神楽舞奉納は、文学部史学科のオムニバス授業「史学入門」の特別講義として行われ、同地区住民と本大学院生や学生がともに舞手を務めた。



学生も地域と共に育つ

人間開発学部「共育フエスティバル」



地域の親子と触れ合った「共育フエスティバル」

業界セミナー始まる
大手・優良企業の採用担当者が連日來校

企業の採用担当者らが、業界の特徴や企業理念などを説明する「業界セミナー」が、10月16日から始まった。今年度は、約100社の大手・優良企業から採用担当者が連日來校し、本学学生に向けて自社の企業理念や会社概要、業界の特徴などについて説明をしている。

会場には、スーツに身を包んだ3年生のほか、1・2年生の姿も多く見られ、進路に対する積極的な姿勢がうかがえた。12月22日(金)までの開催予定は10面を参照。



内定者アドバイザー委嘱状交付式

11月7日に渋谷キャンパス有栖川宮記念ホールで内定者アドバイザー委嘱状交付式が行われた。今回委嘱を受けたのは、大手優良企業・公務員に内定・合格した学生27人。

赤井益久学長から代表の学生に委嘱状が手渡された。川島朱音さん(史4)は「今の自分がここにいるのはキャリアサポート課で指導を受けたから。自分が学んだことを、後輩にも伝えたい」と意気込みを述べた。

内定者アドバイザーは、平日の午後、キャリアサポート課に常駐。予約不要で、体験に基づき、在学生の相談に応じてくれる。



『国学院雑誌』特集号を刊行

学術雑誌『国学院雑誌』では、特集号「博物館・博物館学の諸問題Ⅱ」を11月15日(水)に刊行。今回は、本学の博物館学講座開設60年の節目を記念した企画で、博物館・博物館学の現状と課題、今後の展望



に関する論考をまとめている。論文の執筆陣は、青木豊・文学部教授をはじめ学内外の研究者25人。

配付は渋谷キャンパス若木タワー2階の広報課で行う。対象の文学部、神道文化学部、大学院文学研究科、専攻科、別科生以外には1冊1080円で販売する。問い合わせは、広報課(☎03・5466・0130)まで。



人間開発学部の学生が自ら企画するイベントを通じて地域の親子と触れ合う「共育フエスティバル」が10月29日、たまプラーザキャンパスで開催された。台風22号の影響であいにくの天気となったが、約1200人が訪れた。

9回目を迎えたフエスティバルのテーマは「輪」で、約200人の学生らが準備を進めてきた。訪れた親子は、キャンパスで練り広げる養蜂「万葉エコBe.eプロジェクト」と連動する入浴剤作りなど盛りだくさんの催し物で満喫。人気のクッキングでは子供たちがスイートポテト作りに挑戦した。

入浴剤作りを指導した滝口恵美さん(初教4)は「教育実習の際、指導教官に『堂々と授業できている』と褒められたのは、このイベントのおかげ。保護者と話す機会も多く、保護者と子供で話し分ける際は目線の高さを変えることが有効だと気付けた」と振り返る。同学部の成田信子教授は「学生と子供たちが共に学べる場を設けることで、大学として地域に貢献している。今後も互いのためになる場を提供できれば」と話した。

同日催されたオープンキャンパスに参加した高校生らは、学生主体のイベントが持つ熱気を目の当たりにして自身の将来を重ねながら見入っている様子だった。

明治新政府は、早くから国民を教化し、政府の政治体制を宣布するために教育や布教の体制を整えた。明治3年1月には「治教を明らかにして惟神の道を宣揚すべし」という大教宣布の詔が発布され、その中枢機関として大教院が、官吏として教導職が明治5年に設立された。この大教院の神殿には造化三神(天之御中主神・高御産巢日神・神産巢日神)と天照大神とを鎮祭した。7年には大教院解散に先立ち、後継機関として神道事務局が組織され、祭神は八百万神を加え引き継いだ。しかし、13年の神道事務局神殿新設



明治32年頃の国学院(風俗画報掲載)

初代総裁就任前史

明治維新に由来する皇典講究所の創立

本学は今年で135周年を迎えるが、その創始は母胎であった皇典講究所の創立に端を発し、そして皇典講究所の創立は明治維新の歴史と深く関わる。創立に当たっては不明な点もなお多いが、初代総裁に有栖川宮職仁親王をお迎えする経緯について述べてみたい。

の際に、祭神をめぐる、大國主神を合祀するかどうかで神道界を二分する論争が起こった。いわゆる祭神論争である。これによって神道事務局を中心にまとまっていた神道界は歩調が乱れることとなってしまった。この事態収束のために勅裁を仰ぐこととなり、14年に祭神は宮中三殿の天神地祇・賢所・皇霊を遙拝することとされ、論争に終止符が打たれることとなった。この勅裁には、教導職の総裁として有栖川宮職仁親王を就任させることがあわせて下されている。

翌15年1月に職仁親王は総裁職を辞任するものの、3月に神道界は改めて職仁親王を神道総裁に推戴した。そして、神道界は教学の刷新をはかることとなり、皇典講究所を設立、親王を同所の初代総裁として迎えたのであった。親王は17年に神道総裁を辞されるが、同所の総裁には留まり続けられた。

学問ノ道 第4回

創立135年——赤井学長に聞く

Q 少子高齢化やグローバル化の進展など教育界を取り巻く環境が変わる中、第4次計画が開始しました

「第4次計画には、140年を想定して幼稚園から中学、高校、大学まで6教育機関すべてが参画しました。135年を振り返ると地道に先人の道の上を歩んできましたが、今後何ができるのかを考えるに当たり、過去を振り返る格好の機会を得ました。神道に『中今』の思想があります。135年の過去から未来へ

の中間に今があるという考えで、10年先を考えるいい機会になります。時代も曲がり角、大学も次の展開に向けたエポックメイキングな時期を迎えました」

Q 大学の将来像は

「将来像を『人文・社会科学系の標となる』と定めました。悩みましたが、2次計画で『3つの魂』（伝統と創造、個性と共生、地域性と国際性の3つの調和）を使いました。魂は『おもんばかる』で、相手の立

場を配慮する神道精神の本質を表します。今次の計画では、国学院らしく『魂』に続いて『標』の和語を使いました。将来像は国学院が人文・社会科学系大学の目標になるというわけではなく、大学として『あるべき姿』に向かって努力する』との思いがあります。『いい研究をしてい』と評価されると本望です」

Q 一方で、文系不要論もあり

「文部科学省が平成27年6月に全国の国立大学に通知した文系不要論は大きなインパクトを与えました。しかし人文・社会科学系を軽視するのはとんでもないこと。文化、宗教を顧みないようでは日本文化を継承できません。伝統、文化を大事にし、そのために努力を積み重ねます。人工知能(AI)やロボット技術が発展しても変わらず伝承していかなければなりません。学問には寄り道が必要で、ぶつかりあい、迷いながら未来に向かっていくものです。成功体験が人間を育てるものではありません。失敗、挫折、悩みが豊かな知をたらずと奪えます。悩み力、考える力、多様性を受け入れ生き抜く力を身につける。悩み抜く力を身につけるのはタ

Q 教育目標に「主体性をもち、自立した『大人』の育成」を掲げました

「若い人は悩みと引きこもってしまいがちです。内側に逃げることは決して恥ではありません。大学は元来、失敗や躓きを許容し、やり直しを認める文化を持っています。学問は試行錯誤しながら答えを探し出すものです。学ぶ目的が分からず、一度社会に出て、大学に戻って勉強するの難しい。多様な価値観に触れることが大切です。大学は、失敗してもやり直しの機会を与えられる人生で最後のチャンスといえます。1年ぐらゐ遅れても長い人生のなかでどうってことありません。この間に生き方、信念、人生の考えをしっかり持つほうがいい。大人として羽ば

Q 国学院が考える大人とは

「日本人として教養や分別を身につけた。分別がある人はおかしなことをしません。大学は人との出会いの場であり、失敗してもいいところ。失敗に向き合い、挫折に付き合う。自立に必要なことです。失敗は本人にとってダメージでありマイナスマ、自己嫌悪をもたらしますが、なぜ失敗したかを振り返り、失敗を繰り返さないために先生や先輩に相談

Q 相談に応じる機会を作っているのですか

「相談の機会はありません。履修相談や発表の仕方、学修支援に加え、時としてメンタル相談にも応じています。一人でもって悶々とするより相談するほうがいい。構内にテーブルといすを用意し、パソコンも使えます。ゼミの練習や研究発表の準備をしたり、エントリースートを書いて



140年への転換点

大人を育てる

国学院

創立135年の節目を迎えた国学院大学。平成23年に就任して以来、ガバナンスの強化に力を注いできた赤井益久学長に「21世紀研究教育計画(第4次)」を踏まえ、140年に向けた挑戦を聞いた。

Q うした場所をもっと増やす考えです

本学ならではのグローバル化

Q グローバル化への対応は

「日本の大学改革はこれまで、米国の真似をしてきました。しかし今や日本の大学として、欧米と違う個性を発揮すべきときです。個性がないと物真似で終わります。どの大学もグローバル化をうたいますが、そもそも『学問に国境はない』はずで、とはいえグローバル化への対応は必要です。『グローバル化』の定義をし、独自に取り組みます」

Q 5年後の目標を「国学院ブランドの確立と強化」に定めています

「そのためには、どこで何をどうするかを旗鮮明にすることが重要になります。グローバル化は否定しませんが、全国の大学すべてが同じグローバル化では日本にとって果たして役に立つのでしょうか。文化的な違いがなければ、外国とのつきあいのなかで日本の文化や宗教などを理解して、外国人に説明できるかが問われてきます。これが国学院の目指すグローバル化です」

Q ブランド力は高まっていると感じますか

「ブランド力の強化は2次計画から取り組んできました。ブランド力はまだ十分ではありませんが、10年前より確実に高まっています。もう一

つ突き抜けていくには想像できるイメージや特徴が大事になります。国学院と聞いて何を想起させるか。これまでの積み重ねから『日本の歴史、文学は国学院』と世評に旗鮮明に訴えられなければいけません。学生もブランド力調査で大学を評価します。4次計画で始まった研究ブランディング事業『古事記学』は5年間の大規模プロジェクトです。子供向けに絵本を見せたり読み聞かせたりする『子ども古事記』のほか、古事記アートコンテストも募集しています。古事記の研究については他の追随を許しません。学生たちに読書習慣の定着を狙う『みちのさち』プロジェクトも動き出しました。これも個性化のひとつです」

Q ブランドの確立と強化には

幼稚園から大学まで一貫教育が求められますか

「幼稚園から大学まで法人一体で取り組む、一貫教育の環境を整える必要があります。法人としては小学校を含めた『オール国学院』で教育力を高めていくことを考えています」

「伝承の力」で個性輝かせる

Q 140年、150年に向か

つての課題は

「少なくとも10年先は何があっても困らないように考えています。国学院の卒業生に3人の人間国宝がいます。狂言の山本東次郎師、能楽の友枝昭世師、刀剣研磨の本阿彌光洲師ですが、『名人に加え、後継者を



Q 最近の国学院生について、どのように感じていますか

「学生の授業への出席率は高い。授業時間は構内に学生は少ないが、休憩時間は人があふれています。また、自分で立ち回れる学生が増えています。このため授業は学生の多様性に沿って展開、教育の質も向上しています。本学の提供する学問は人文・社会科学系です。この中で、チーク・アンド・トークを基本に、学び方にアクティブラーニングを取り入れていきます。小グループに分かれて問題解決に向けチームで研究してプレゼンテーションを行います。ツールは変わっても基本は以前と一緒。先生と学生の1対1のこ

Q 育てられる人でなければ人間国宝になれない」と聞き、なるほど、もともとだと思いましたが、国学院も歴史を受け継いでいます。135年の過去を振り返りながら10、20年先の未来を見据えなければなりません。次世代を育てることがリーダーに求められます。まさに継承で、伝承の力を受け継ぎながら大学として個性輝くものにしていきます」

Q どのように感じていますか

「学生の授業への出席率は高い。授業時間は構内に学生は少ないが、休憩時間は人があふれています。また、自分で立ち回れる学生が増えています。このため授業は学生の多様性に沿って展開、教育の質も向上しています。本学の提供する学問は人文・社会科学系です。この中で、チーク・アンド・トークを基本に、学び方にアクティブラーニングを取り入れていきます。小グループに分かれて問題解決に向けチームで研究してプレゼンテーションを行います。ツールは変わっても基本は以前と一緒。先生と学生の1対1のこ

Q 教育目標に「主体性をもち、自立した『大人』の育成」を掲げました

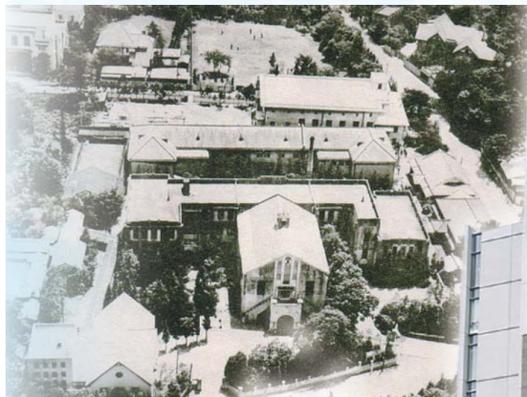
「若い人は悩みと引きこもってしまいがちです。内側に逃げることは決して恥ではありません。大学は元来、失敗や躓きを許容し、やり直しを認める文化を持っています。学問は試行錯誤しながら答えを探し出すものです。学ぶ目的が分からず、一度社会に出て、大学に戻って勉強するの難しい。多様な価値観に触れることが大切です。大学は、失敗してもやり直しの機会を与えられる人生で最後のチャンスといえます。1年ぐらゐ遅れても長い人生のなかでどうってことありません。この間に生き方、信念、人生の考えをしっかり持つほうがいい。大人として羽ば

Q 社会貢献活動も熱心に取り組んでいますか

「社会貢献ではキャンパスを構える渋谷区と7月、包括連携協定『シブヤ・ソーシヤル・アクション・パートナー協定(S-SAP協定)』を締結、32年の東京五輪・パラリンピックに向けた地域活性化、再開発が進む渋谷区周辺の遊歩道の利活用で学内公募から11件が選ばれました。渋谷区とは長い付き合いで、区民向け講座、博物館の開放のほか、災害時の帰宅困難者の受け入れでも協力しています」

Q 最後に学生へのメッセージをいただけますか

「国学院を選んで入ったわけですから、やりたいことを見つけてやり抜いてほしい。迷ったり、悩んだりするでしょうが、恐れる必要はありません。学生の3分の1はやりたいことがあり、3分の1が分からない。残りの3分の1が入ってから考えて見つけるタイプです。見つからなくても半年が過ぎるのを惜しむな。やりたいことを早く見つけて邁進してほしい。目標を見つけると自分で勉強するものです。これが学生にやる気と幸せをもたらします」



博物館 No.7
学芸員の資料ファイル

今月の資料 有栖川宮熈仁親王告諭(写)

時代: 明治15 (1882) 年11月4日

かつて本学の経営母体であった皇典講究所は、明治15 (1882) 年に創立されました。同年11月4日の開校式では、初代総裁の有栖川宮熈仁親王より、日本の国柄を明らかにし(国体ヲ講明)、道德・徳義心を養い育む(徳性ヲ涵養) ことにより、根本を究明する(本ヲ立ツル) ことが学問の道において最重要であるとする「告諭」を賜りました。これが本学の「建学の精神」の基底をなしています。

展示案内: 本資料は、博物館の常設展示(校史展示室)でご覧いただけます。

ウェブサイト案内: <http://museum.kokugakuin.ac.jp/>



学生時代を振り返る市川染五郎さん



あいさつする吉田院友会長



院友も参加しての吹奏楽演奏



こくびよんとの記念撮影を楽しむ院友



名優とのエピソードを語る岩下客員教授



院友会の各支部が地元名物の即売も



院友大会でオリジナルの小謡を披露する山本東次郎さん

ホームカミングデー 市川染五郎さん「本名でいられた場所」

年に1度、院友をキャンパスに迎える「ホームカミングデー」が10月21日、渋谷・たまプラーザ両キャンパスで開催された。渋谷キャンパスでは目玉のトークライブなどが催され、訪れた院友は恩師、学友との再会の時を過ごした。

本幸四郎を襲名する市川染五郎さんへの院友会正会員推奨状授与式が行われた。吉田会長から推奨状を受けた染五郎さんは本学で過ごした当時は振り返り「(本名の)藤間照薫の瞬間は学生時代で終わりました。本当に貴重な時間・場所でした」とあいさつ。トークライブ

では、先輩の勘三郎さんによって結ばれた本学との縁を紹介し、「学生時代の思い出は気楽に話せる友人を得られたこと」と述懐し、「歌舞伎は演劇として存在する。そのためにやっていきたい。若い人たちは歌舞伎に何かを探しに来てもらいたい」と熱く語った。

たまプラーザキャンパスでは、カフェラウンジ万葉の小径で懇親会が開催され、約70人の人間開発学部卒業生が集まった。田沼茂紀人間開発学部長・同教授は「たくさんの懐かしい顔が見えて喜ばしい」と歓迎。懇親会半ばには卒業生からの近況報告やくじ引きなども行われた。

10・21国学院 来た・観た・感動した！

10月21日に本学で開催されたホームカミングデー、キャンパス見学会、観月祭のためにキャンパスを訪れた人々に感想を聞いた。

●大村正直さん(平15卒・111期経)「約15年ぶりに来た。こんなに変わっちゃうのかとびっくりしたが、(自分が)すごくいい大学を選んだなと思えた」

●近藤篤さん(昭49卒・82期文)「岩下尚史客員教授の特別講演を楽しみにしてきた。ホームカミングデーは年々栄えていってうれしい」

●塩谷栄作さん(昭48卒・81期法)「新しいキャンパスに在学時の面影が一切なく驚いた」

●藤原英男さん(昭45卒・78期法)「染五郎さんの講演が

よかった。気さくに話すところや日常を知れておもしろかった」

●史学部学生の父親、石井敏明さん「群馬県長野原町の居家以岩遺跡で発掘された人骨の展示を楽しみに来た。きれいに残っていて不思議だ」

●水上真一さん(昭45卒・78期法)「染五郎さんの学生生活と歌舞伎に対する心構えがわかってよかった。イベントでは、学生が一生懸命落語をやっていたのがよかった」

山本東次郎さん小謡披露

130周年記念 院友大会懇親会

発足130周年を迎えた院友会(吉田茂穂会長)の院友大会懇親会が10月21日午後5時から、渋谷キャンパス3号館メモリアルレストランで行われた。この会は例年5月に都内ホテルで開催していたが「新しくなったキャンパスが見たい」との多くの院友の声にちなみ、今回初めて渋谷キャンパスで開催された。

吉田会長は冒頭で「(懇親会では)歓を尽くしていただきたい」と述べ、赤井益久学長と岩下尚史客員教授のあいさつが続いた。130周年のお祝いに駆けつけた院友で人間国宝の狂言師、山本東次郎さん(昭36卒・69期文)は、「子孫の繁栄と長寿を願い、みなさんの幸せのためにこの杯を捧げます」という意味を込めたオリジナルの小謡を披露。集まった一同は思いがけない「本物」との対面を喜んだ。

院友らの昔話で盛り上がる中、今年度の娘の入学で「4世代続けて国学院」となった飯高正幸さん(昭53卒・86期法)一家ら、3世代以上国学院に通う院友3組が表彰された。

会の終了直前、全学応援団による校歌が歌われた際には、元団長の山本富彦さん(昭43卒・76期法)が現役の大峰真也団長(経営4)に代わって指揮を執り、盛況の内に幕を閉じた。

試合で実力が発揮できる選手には理由があります。どのように練習に取り組めばうまくなるのか? どのように試合に臨めば実力が発揮できるのか? 認定スポーツメンタルトレーニング指導士でもある健康体育学科の伊藤英之助教が、強いメンタルの作り方を伝授します。

- 平成30年1月27日(土)
■10時~11時
■たまプラーザキャンパス1号館B1階201教室
■中学生以上で、スポーツに携わる方または、心理学に興味のある方など、先着30人
■本学ホームページ(https://www.kokugakuin.ac.jp/event/41500)、またはFAX・メール(氏名・年齢・電話番号・住所・メールアドレス明記)で、人間開発学部地域プロモーションセンター(☎045・904・7707)、✉kchpc@kokugakuin.ac.jpへ
■人間開発学部地域プロモーションセンター(☎045・904・7707)

- 平成30年1月20日(土)
■17時~(16時から受け付け)
■院友会館大ホール
■6000円
■院友会報同封はがき・FAX・メールで、院友会(☎03・3400・7996)、✉inyuukai@kokugakuin.or.jpへ
■院友会(☎03・3400・7781)

・柔道部・硬式野球部・卓球部・スキー部・ソフトテニス部の後輩たちも参加予定です。ご家族の方もお問い合わせの上ご参加ください。

博物館

岡本太郎記念館協力 企画展「いのちの交歓 - 残酷なロマンティスム -」

■人間と人間以外のモノたちとの「食べる/食べられる」の関係性を、芸術家・岡本太郎は「いのちの交歓」と呼びました。今回は、岡本太郎記念館の協力を受けて、あらためて私たちの生命観を問い直します。

■12月16日(土)~平成30年2月25日(日)
※12月26日(火)~平成30年1月5日(金)、2月2日(金)は休館

■10時~18時(入館は17時30分まで)
■博物館企画展示室・ホール
■無料

会期中に博物館と学術資料センターが企画する各種イベントは次の通り。(すべてのイベントは無料。一部要申込)

いのちの行方を考える オープニングイベント

■ドキュメンタリー映画「久高オデッセイ」第3部 風章(沖縄映像文化研究所、監督:大重潤一郎、製作:鎌田東二、音楽:新実徳英、語り:鶴田真由)、鎌田東二氏(上智大学特任教授)映画解説(30分)&上映会(95分)

■12月16日(土)
■10時~12時15分

生と性と死について考える

■特別講演「食べる/交わる/殺す - 現代の表現の地平から」(赤坂憲雄氏《学習院大学教授》)、トークセッション:赤坂氏×石井匠(博物館学芸員)

■12月23日(祝・土)
■15時~16時30分

いのちのつながりを考える(要予約)

■ドキュメンタリー映画「カレララ

イスを一から作る」(出演:関野吉晴/武蔵野美術大学関野ゼミ生、監督:前田亜紀、96分)、トークセッション:関野吉晴(探検家・医師)×石井匠(博物館学芸員)
※映画は一部刺激的なシーンを含みます。予めご了承ください

■平成30年1月19日(金)
■18時30分~21時
■博物館ホームページの申込フォームから、定員80人

音のいのちを考える

■トークセッション「いのちの声を聴く」:雲龍(笛奏者)×三上敏視(音楽家/神楽・伝承音楽研究)

■平成30年1月21日(日)
■15時~16時30分

いのちとイノチの間を考える

■トークセッション「いのちの裂け目」(井賀孝《写真家・山伏》×井上亜美《映像作家・猟師》)

■平成30年1月27日(土)
■15時~16時30分

モノのいのちを考える

■トークセッション「非生命のいのち」(田中望《画家》×藤原彩人《彫刻家》)

■平成30年2月10日(土)
■15時~16時30分

ミュージアムイベント

ミュージアムトーク「いのちの交歓 - 残酷なロマンティスム -」

■12月16日(土)
■13時30分~14時30分

ミュージアムトーク「《太陽の塔》と《明日の神話》のいのち」

■平成30年2月24日(土)
■15時~16時

※博物館関連イベントの問い合わせは、☎03・5466・0359まで

平成30年 新年院友交歓会

■本学院友会主催の新年会です。院友の活動報告や福引大会など盛りだくさんの内容で、活躍する陸上競技部

キャリアサポート

合同企業説明会

■本学学生の採用意欲が高い企業が来校します。まだ就職先が決定していない4年生は積極的に参加してください。

■11月29日(水)
■14時~16時40分(入退場自由)
■学術メディアセンター1階多目的ホール
■4年生

業界セミナー

■各業界リーディングカンパニーの採用担当者に業界や企業について説明していただきます。参加企業は個人では予約が取れない優良企業ばかり。志望が固まっていない人も、まず企業の話聞いて興味・関心の幅

業界セミナー参加企業一覧

Table with 4 columns: 開催日, 企業, 時間, 開催日, 企業, 時間. Lists various companies like 積水ハウス, 東京地下鉄, SMBC信託銀行, etc.

を広げましょう。
■下表参照
①4限(14時30分~15時50分)
②5限(16時10分~17時30分)
③6限(17時50分~19時10分)
■1~3年生
アドバイス会
■就活を終えた4年生の内定者や各業界で活躍する先輩、就活のプロから実践的アドバイスが聞けます
■【内定者アドバイス会】
▶渋谷 = 12月16日(土)
▶たまプラーザ = 平成30年1月24日(水)
【OB・OGアドバイス会】
▶渋谷 = 平成30年2月17日(土)
■午後
■3年生
※詳細確認・申し込みはK-SMAPYのキャリアサポートシステムから

本紙へのご感想をお待ちしています

「国学院大学学報」では、読者の皆さまからのご意見・ご感想を募集しています。今後、定期的に本紙にて「読者の声」を紹介していく予定です。掲載された方には、本学オリジナルグッズを進呈いたします。ご投稿は以下の要領でお願いします。

①今号の満足度5段階(低1~5高) ②本紙へのご意見③住所④氏名⑤所属など(在学生の場合<学科・学年>、保護者、院友<本学卒業生>、本学・本法人教職員、その他いずれか)を明記の上、はがき・FAXで国学院大学広報課(連絡先は1面参照)までお送りください。また、QRコードよりEメール作成画面を開くことができます。なお、お送りいただいた方の個人情報(法令に基づいて取り扱いいたします。)

※お寄せになられた原稿・お便りは返却いたしません



思い出すこと

若木が丘 だより

教育開発推進機構 准教授 鈴木 崇義



学生の時、先生が「昔話」をしてくださった。その先生が学生だった頃はコピー機がなく、教材は手書きで、人数分作っていたのだそうだ。学生たちは、先生の負担を軽くするために、教材のプリントを一枚だけいただき、それをみんなで書き写したこともあった。手書きの一枚は、受講生の内の一人だけがもらえる。みな、先生の直筆のプリントが嬉しくて、順番が来るのが待ち遠しかったという。
また、ある先生の授業では、何十年前も前に作ったガリ版のテキストを使用していた。字はインクが色あせて薄青くなっていったし、紙も赤く焼けてしまっていたが、とてもきれいな字で読みやすかった。ある時、先生が授業前に下読みをしておられたのを見て驚いた。何も見ずにすらすらと原文を板書し、たちどころに
「国学院大学学報」では、読者の皆さまからのご意見・ご感想を募集しています。今後、定期的に本紙にて「読者の声」を紹介していく予定です。掲載された方には、本学オリジナルグッズを進呈いたします。ご投稿は以下の要領でお願いします。
①今号の満足度5段階(低1~5高) ②本紙へのご意見③住所④氏名⑤所属など(在学生の場合<学科・学年>、保護者、院友<本学卒業生>、本学・本法人教職員、その他いずれか)を明記の上、はがき・FAXで国学院大学広報課(連絡先は1面参照)までお送りください。また、QRコードよりEメール作成画面を開くことができます。なお、お送りいただいた方の個人情報(法令に基づいて取り扱いいたします。)

インフォダイジェスト

..... 在学生
 卒業生
 一般
 受験生
 ■内容 ■日にち ■時間 ■場所 ■対象 ■申し込み ■料金 ■問い合わせ

大学からのお知らせ

台風21号で被災された方へ

10月の台風21号により災害に遭われた皆さまには、心よりお見舞いを申し上げます。今回の被害で災害救助法が適用された地域に主たる家計支持者が居住し、家計の急変によって今後の学業生活に支障をきたすおそれがある学生は保証人（保護者等）と相談のうえ、大学各窓口までご相談ください。

■三重県伊勢市・玉城町（10月22日災害救助法適用）、和歌山県新宮市

（10月21日災害救助法適用）

- ▶ 学生生活課
（☎03・5466・0146）
- ▶ たまプラーザ事務課
（☎045・904・7705）
- ▶ 大学院事務課
（☎03・5466・0142）

卒業式、卒業証書・学位記並びに修了証書授与式について

- 平成30年3月18日(日)
- [卒業式]
- グランドプリンスホテル新高輪「飛天」
- ・■
- ▶ 経済学部・法学部・人間開発学部 = 10時～

- ▶ 文学部・神道文化学部・専攻科・別科 = 13時～
- [卒業証書・学位記、修了証書等の授与]
- ・■・■
- ▶ 経済学部・法学部 = 13時～、渋谷キャンパス
- ▶ 文学部・神道文化学部・専攻科・別科 = 16時～、渋谷キャンパス
- ▶ 人間開発学部 = 13時30分～、たまプラーザキャンパス
- 園総務課（☎03・5466・0111）

平成30年度 協定留学生（派遣）を募集

協定留学制度（派遣留学）とは、本学が国際交流協定を結ぶ外国の大学へ本学学生を交換留学生として派遣する制度。平成30年9月から、または2学期間の留学希望者を募集します。

▶ 応募期間：平成30年1月9日(火)～

- 15日(月)
- ▶ 留学先：マニトバ大学（カナダ）、ビンガムトン大学（米国）、ヨーク・セント・ジョン大学（英国）、南開大学・復旦大学（以上中国）、南台科技大学（台湾）、京畿大学校（韓国）、ハノイ大学（ベトナム）
- 国際交流課（☎03・5778・7061）

イベント 30

生きがい講座2017 勝つための心理学 ～競技力向上と実力発揮～

■ オリンピックや世界選手権に出場する一流アスリートでも、良い精神状態で試合に臨むのは難しいとされています。練習してうまくなる選手や

LLC

TOEIC® 学内テスト

- L L C が団体受験特別制度（I P：Institutional Program）として実施するものです。公開テストと I P テストのスコアの有効性は T O E I C 主催団体により同一とされています。※企業、大学等により基準が異なる場合もあります
- 平成30年2月9日(金)
- 12時50分集合、15時35分解散（実際の試験時間は2時間）

- 渋谷キャンパス（教室は試験1週間前をめどにお知らせします）
- 3500円
- 本学在学生
- 12月4日(月)～平成30年1月25日(休)までに、証明書自動発行機で証紙を購入し、各キャンパスの L L C に提出
- ▶ 渋谷キャンパス：L L C（学修支援センター相談室〈3号館3306教室〉）
- ▶ たまプラーザキャンパス：L L C YOKOHAMA OFFICE（1号館304教室）

箱根駅伝 治道から、全国から選手にエールを

◆学生応援ボランティアを募集

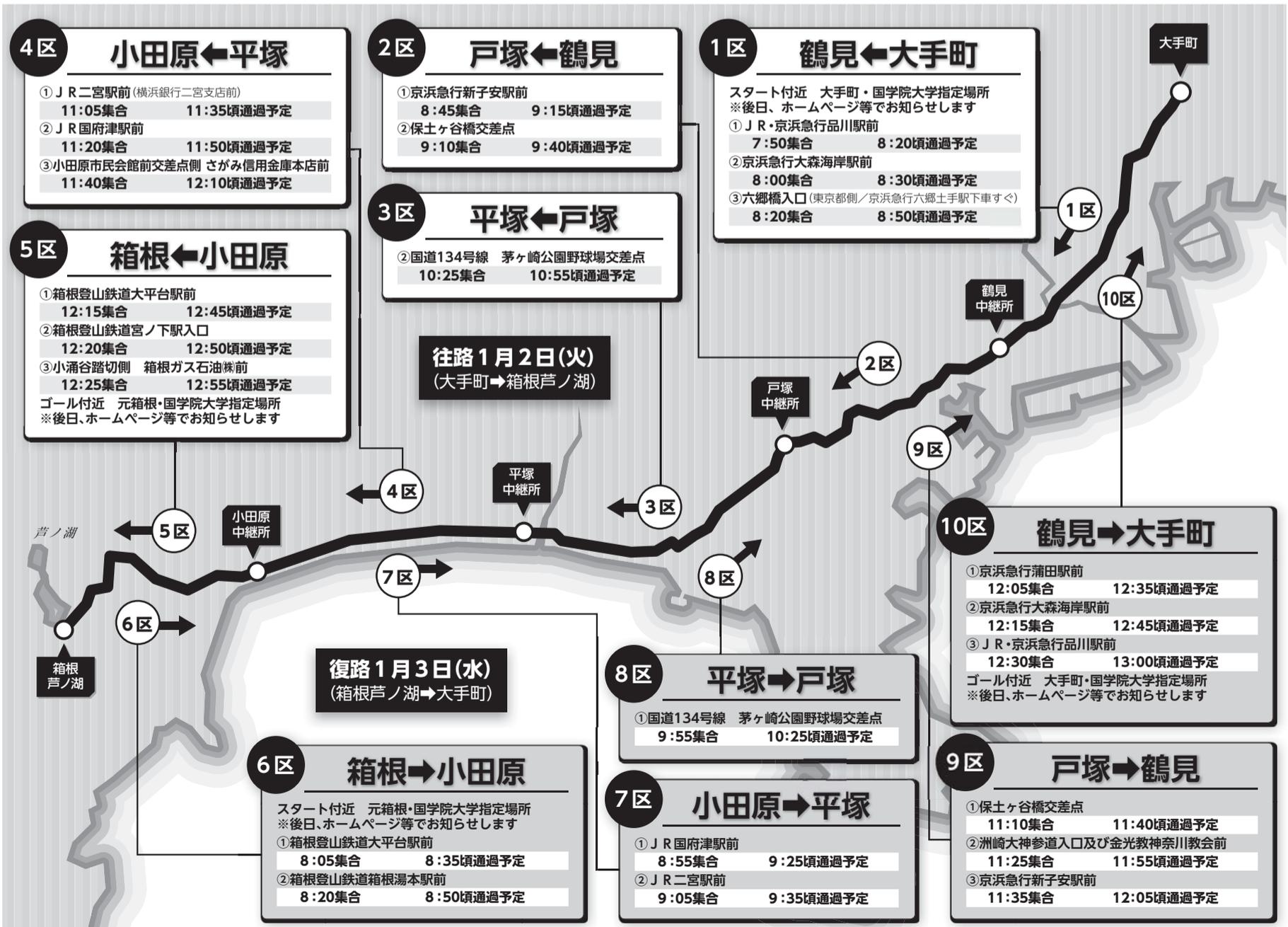
本学と国学院大学駅伝応援の会（坂本真佐人会長）、国学院大学院友会、若木育成会では、箱根駅伝当日の治道に応援ポイント（下図参照）を設け、選手に声援を送る予定です。本学では、各ポイントでの応援、幟の設置、治道の清掃などを行う学生応援ボランティアを募集します。参加者には大学オリジナル応援グッズを進呈。希望者は、申込用紙に必要事項を記入し、学生生活課・たまプラーザ事務課に提出してください。12月8日(金)まで申し込みを受け付けます。詳しくは学生生活課（☎03・5466・0145）まで。

◆院友、ご父母も治道と一緒に応援を院友、ご父母の皆様も、箱根駅伝当

日は、治道の応援ポイントで選手たちの力走を後押ししませんか？ ぜひ、お近くの応援ポイントにお集まりください。

◆陸上競技部へのメッセージ募金も

11回目の箱根路に挑む学生にむけた熱い思いを送る「メッセージ募金」も実施中です。「メッセージ募金」は、課外活動などに熱心に取り組む在学生に向けたためメッセージをホームページ上から直接投稿してもらう仕組みです。500円から寄付が可能で、メッセージはそのままホームページに公開されます（匿名可）。募金に関する情報はホームページ（<http://kifu.kokugakuin.ac.jp/>）で閲覧できます。



K:DNA——創立135年目を迎えた国学院大学の**遺伝子**…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

●編集 総合企画部広報課/学生アドバイザーメディアチーム [永井伶奈(日文4)/尾澤桃子(法3)/本間由(日文3)/柳下桂一郎(史3)/後藤哲治(日文2)/山本莉紗子(外文2)/石原礼菜(日文1)/鈴木亜美(日文1)]

陸上競技部

5度目の伊勢路 総合11位

秩父宮賜杯 第49回全日本大学駅伝対校選手権大会が11月5日、愛知・熱田神宮から三重・伊勢の神宮までの全8区間、全長106.8キロのコースで行われた。6月に行われた関東地区予選会を突破し、3年連続5回目となる本戦出場権を得た本学陸上競技部は、5時間21分26秒で総合11位だった。優勝は、神奈川大学。

全日本大学駅伝は、出雲駅伝、箱根駅伝とならぶ学生3大駅伝の一つ。当日は晴天の下、午前8時5分にレースはスタートした。1区の浦野雄平選手(経営2)が区間7位で好位置につけ、上位をうかがう。1年生で唯一出場した臼井健太選手(健体1)が区間9位の好走をみせるなど、上位陣が目まぐるしく入れ替わる中、中盤まで1桁順位をキープした。終盤は、順位を下げたものの、最後はアンカーの松永拓馬選手(法4)が総合11位でゴールテープを切った。

《取材》尾澤、山本、豊田、勝村、石原

総合順位

順位	大学名	通算記録	順位	大学名	通算記録
1	神奈川大学	5:12:49	14	大東文化大学	5:24:04
2	東海大学	5:14:07	15	明治大学	5:25:02
3	青山学院大学	5:15:22	16	立命館大学	5:25:40
4	駒澤大学	5:15:59	17	皇学館大学	5:30:19
5	東洋大学	5:16:29	18	京都産業大学	5:30:51
6	中央学院大学	5:17:59	19	関西学院大学	5:32:50
以上、シード権獲得					
7	早稲田大学	5:19:08	20	広島経済大学	5:33:44
8	帝京大学	5:19:39	21	愛知工業大学	5:34:08
9	山梨学院大学	5:20:32	22	第一工業大学	5:35:09
10	法政大学	5:20:59	23	東北大学	5:41:25
11	国学院大学	5:21:26	24	北海道大学	5:46:21
12	順天堂大学	5:21:34	25	新潟大学	5:49:13
13	城西大学	5:22:31	--	全日本大学選抜	5:26:01
			--	東海学連選抜	5:38:03



臼井健太選手



浦野雄平選手

個人成績

区間	氏名	所属	タイム	区間順位
1	浦野 雄平	経営2	43'45"	7位
2	向 晃平	健体4	39'53"	13位
3	江島 峻太	経済3	28'16"	11位
4	土方 英和	健体2	41'17"	12位
5	臼井 健太	健体1	35'14"	9位
6	内田 健太	法 4	37'30"	17位
7	河野 敢太	経営4	35'48"	13位
8	松永 拓馬	法 4	59'43"	11位



ドラフト会議

硬式野球部・山崎選手 東北楽天が3位指名

10月26日午後5時から都内のホテルでプロ野球ドラフト会議が行われた。本学硬式野球部からプロ志望届を提出していた山崎剛選手(経営4)は、3巡目で東北楽天から指名を受けた。本学硬式野球部員のプロ指名は2年ぶり、楽天からの指名は、18年度の嶋基宏選手(平19卒・115期史)、19年度の聖澤諒選手(平20卒・116期経ネ)に続いて3人目となる。

指名確定後、鳥山泰孝・硬式野球部監督とともに記者会見に臨んだ山崎選手は、「(指名を受けて)ホッとしています。10年、20年とレギュラ

ーになれる選手になりたい。ここまで育ててくれた家族、両親に感謝したい」と心境を語った。鳥山監督は「走攻守三拍子そろった選手。プロ野球でもレギュラー争いができる。プロ入りまでにさらにステップアップをしてほしい」と話した。

山崎選手は、2年次から安定した守備力を武器に二塁手として定着。東都リーグではベストナイン(二塁手)に2度、首位打者にも1度輝いている。今秋のリーグ戦では、リーグ24人目(本学初)の100安打を達成するなど実績を重ねてきた。